

令和7(2026)年8月
アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

9月		10月		11～12月		積雪期間		3月		4月		5月		6月			
★播種前の排水対策は確実に		★耕起は丁寧に★適正播種量で苗立ち確保		★排水溝は随時手直しする						★赤かび病防除の徹底				★適期刈取りで高品質麦に			
播種前の排水対策 ポイント①  ●稲刈り後、すぐに額縁排水溝を設置する。 ●サブソイラによる心土破砕と弾丸暗渠を設置する。		土壌pHの矯正 ポイント②  ●耕起前に粒状貝化石を150～200kg/10a施用する。 (土壌pH6.0～6.5を確保)。		除草剤散布 ポイント③  ●適正量とする。 ・基肥量や播種量は、播種時期、播種方法を考慮し、率の向上を図る(目標 碎土率60%以上)。 ・耕起作業は土が乾いた状態でゆっくり行い、碎土		排水溝の補修 ●排水溝を補修して湿害を発生させない。		融雪直後に野を駆除を実施する。		赤かび病の防除 ポイント④  ●2回目防除は1回目散布の7日後 ●1回目防除は穂揃期(開花始め)		刈取り準備 ●異種穀粒の混入を防止する ●異種穀粒の混入を防止する ●刈取りの目安 ●除去する。 ●カラスノエンドウを刈取り前に圃場内から徹底する。 ●ためにコンバインの清掃を ●異種穀粒の混入を防止する		刈取り ●屈曲した穂の割合が50%程度 ・子実が固く引き締まる ・茎葉と子実のほとんどが黄化 ●刈取りの目安		収穫後の圃場管理 ●大豆や野菜栽培による有効 ●緑肥作物の作付けにより活用を努める。 ●(額縁排水溝を設置する)。 ●地力増進等に努める ●緑肥作物の作付けにより活用を努める。 ポイント⑤ 	
●乾燥種子10kg当たりベンレートコート50gを均一 ●種子消毒の実施 (病害発生防止のため実施する。)		●(ただし、表面散播では使用できないので注意する。) ●雑草に奪われるのを防ぐ。 ●播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が		●排水溝を補修して湿害を発生させない。		●融雪直後に野を駆除を実施する。		●赤かび病の防除 ●2回目防除は1回目散布の7日後 ●1回目防除は穂揃期(開花始め)		●刈取り準備 ●異種穀粒の混入を防止する ●異種穀粒の混入を防止する ●刈取りの目安 ●除去する。 ●カラスノエンドウを刈取り前に圃場内から徹底する。 ●ためにコンバインの清掃を ●異種穀粒の混入を防止する		●刈取り ●屈曲した穂の割合が50%程度 ・子実が固く引き締まる ・茎葉と子実のほとんどが黄化 ●刈取りの目安		●収穫後の圃場管理 ●大豆や野菜栽培による有効 ●緑肥作物の作付けにより活用を努める。 ●(額縁排水溝を設置する)。 ●地力増進等に努める ●緑肥作物の作付けにより活用を努める。 ポイント⑤ 			
●乾燥種子10kg当たりベンレートコート50gを均一 ●種子消毒の実施 (病害発生防止のため実施する。)		●(ただし、表面散播では使用できないので注意する。) ●雑草に奪われるのを防ぐ。 ●播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が		●排水溝を補修して湿害を発生させない。		●融雪直後に野を駆除を実施する。		●赤かび病の防除 ●2回目防除は1回目散布の7日後 ●1回目防除は穂揃期(開花始め)		●刈取り準備 ●異種穀粒の混入を防止する ●異種穀粒の混入を防止する ●刈取りの目安 ●除去する。 ●カラスノエンドウを刈取り前に圃場内から徹底する。 ●ためにコンバインの清掃を ●異種穀粒の混入を防止する		●刈取り ●屈曲した穂の割合が50%程度 ・子実が固く引き締まる ・茎葉と子実のほとんどが黄化 ●刈取りの目安		●収穫後の圃場管理 ●大豆や野菜栽培による有効 ●緑肥作物の作付けにより活用を努める。 ●(額縁排水溝を設置する)。 ●地力増進等に努める ●緑肥作物の作付けにより活用を努める。 ポイント⑤ 			

【圃場300m×100m】

【成熟期の麦の状態】

栽培管理のポイント

は重点技術対策

※安全安心な大麦を生産、販売するために『生産記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。